

様式第 10

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
太田市外三町広域	太田市、千代田町、大泉町及び邑楽町	平成 26 年度～令和 2 年度	令和 3 年度

1 目標の達成状況
(ごみ処理)

指 標	現 状 (平成 24 年度)	目 標 (令和 3 年度) A	実 績 (令和 3 年度) B	実績 /目標	
排出量	事業系 総排出量	28,026t	26,459t	28,786t	-48.2%
	1 事業所当たりの排出量	2.0t	1.9t	2.1t	-100.0%
	生活系 総排出量	79,137t	70,995t	77,351t	-22.3%
	1 事業所当たりの排出量	244.8kg/人	222.1kg/人	256.9kg/人	-52.7%
	合 計 事業系生活系総排出量合計				
再生利用量	直接資源化量				
	総資源化量				
エネルギー回収量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量)				
最終処分量	埋立最終処分量				

※目標未達成の指標のみを記載。

(生活排水処理)

指 標	現 状 (平成 24 年度)	目 標 (令和 3 年度) A	実 績 (令和 3 年度) B	実績 /目標
総人口				—
公共下水道	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
集落排水施設等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
合併処理浄化槽等	汚水衛生処理人口			%
	汚水衛生処理率又は汚水処理人口普及率	%	%	%
未処理人口	汚水衛生未処理人口			%

※目標未達成の指標のみを記載。

2 目標が達成できなかった要因

- ・人口について、地域計画を策定時は220,395人（平成25年）、目標年度（平成33年度）は217,700人で、2,695人の人口減少を想定していたが、現状では、222,562人（令和4年3月）で2,167人増となり、計画よりも4,862増となっている。
- ・また、コロナ過において集団回収の中止が相次ぎ、集団回収での回収量が想定していた、7,285tから1,629tに減っており、5,656tの減となった。
- ・さらに、コロナ過において家で過ごす時間が増えたことから、家の片づけによる不用物の処分や、家庭での飲食の機会が増え、ごみ量が増加したものと考えられる。

3 目標達成に向けた方策

- ・住民、事業者、行政が一体となって4R運動、**Refuse** リフューズ（発生回避）、**Reduce** リデュース（発生抑制）、**Reuse** リユース（再使用）、**Recycle** リサイクル（再生利用）を積極的に進める。
- ・ごみ減量施策の促進およびごみ分別に対する市民の意識向上を目指し、最も大きい可燃ごみ袋の単価を150円から200円に増額する。
- ・太田市清掃センター（ごみ焼却施設、粗大ごみ処理施設）を解体し、跡地にストックヤードの整備を一体とした事業を行い、より一層の紙ごみ等の分別を進める。
- ・生ごみ処理機の助成金について、R4年度に期間限定で助成率を2/3への増額、限度額の増額し、生ごみ処理機の普及を促し、ごみの減量を促進する。
- ・集団回収の報奨金制度を引き続き行い、地域や学校等での集団回収を積極的に行っていく。

（都道府県知事の所見）

- ・ごみ処理に関しては、目標達成に向けた方策として掲げた、4R運動の推進、ごみ減量施策やストックヤード整備等を確実に実施することで、目標が達成されるよう努められたい。